

# 秋田市内企業景況調査結果

(2024年10~12月期)

秋田商工会議所

## ＜内容＞

- ・ 全産業の項目別D I 値
- ・ 産業別D I 値
- ・ 設備投資
- ・ 経営上の問題点
- ・ 付帯調査
- ・ 総括表

\* 景気判断・D I 値とは、「増加」・「好転」・「過剰」したとする企業割合から「減少」・「悪化」・「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。(▲：マイナス)

## ＜回収状況＞

業種	対象企業数	有効回答企業数
建設業	50	43 (86.0%)
製造業	50	41 (82.0%)
卸売業	50	43 (86.0%)

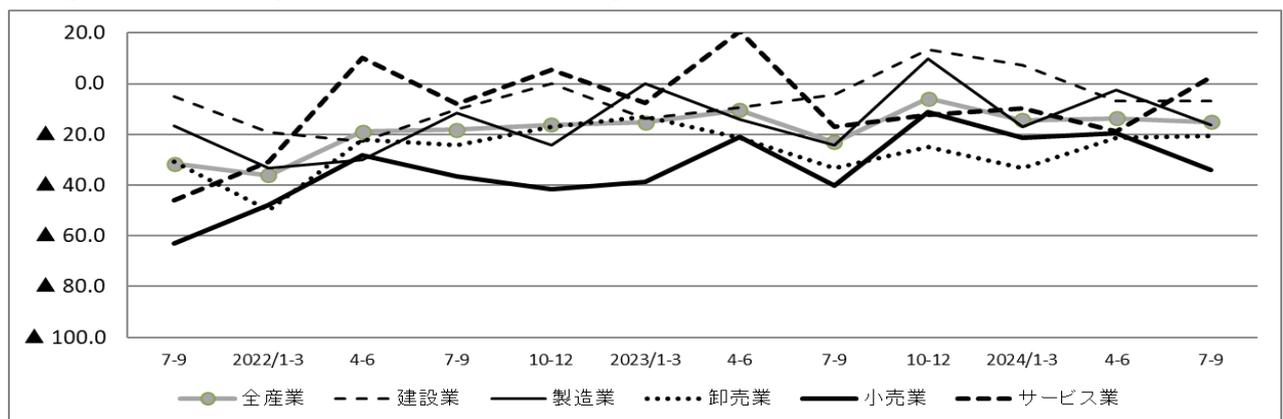
業種	対象企業数	有効回答企業数
小売業	50	38 (76.0%)
サービス業	50	39 (78.0%)
合計	250	204 (81.6%)

## I. 全産業の項目別D I 値

### 1. 業況

今期(10~12月前年同期比)の業況D I 値は、全産業で▲9.3と前期と比べ改善した。  
 産業別では、サービス業が大幅に悪化した一方、小売業は大幅に改善、建設業、製造業、卸売業も改善した。  
 来期の見通し(1~3月)では、全産業で▲5.9と今期と比べ改善を見通している。  
 産業別では、建設業が悪化を見通す一方、小売業、サービス業、製造業は改善を見通している。卸売業は横ばいを見通している。

	前期(7~9月)		今期(10~12月)			
	(A)	来期見通(10~12月) (B)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 15.1	▲ 8.7	▲ 9.3	+5.8	▲ 5.9	+3.4
建設業	▲ 7.0	▲ 2.3	4.7	+11.7	▲ 2.4	-7.1
製造業	▲ 16.3	▲ 9.3	▲ 9.7	+6.6	▲ 2.5	+7.2
卸売業	▲ 20.5	▲ 15.4	▲ 16.3	+4.2	▲ 16.3	0.0
小売業	▲ 34.1	▲ 19.5	▲ 10.5	+23.6	0.0	+10.5
サービス業	2.6	2.6	▲ 15.4	-18.0	▲ 7.7	+7.7



## 2. 売上額・完成工事額

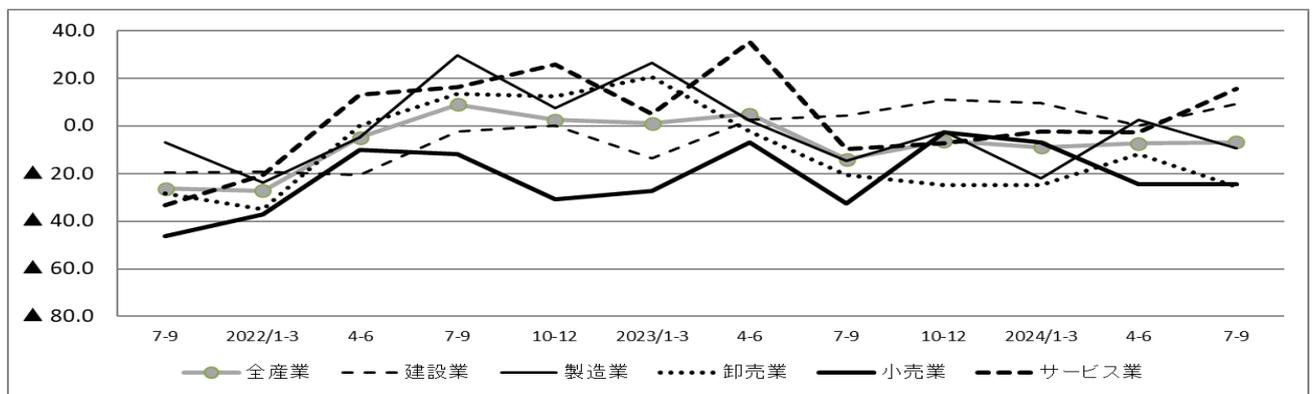
今期(10~12月前年同期比)の売上額・完成工事額のD I値は、全産業で▲3.4と前期と比べ改善した。

産業別では、サービス業と建設業が悪化、製造業もわずかながら悪化した一方、卸売業は大幅に改善、小売業も改善した。

来期の見通し(1~3月)では、全産業で▲6.9と今期と比べ悪化を見通している。

産業別では、卸売業と小売業が悪化、建設業もわずかながら悪化を見通す一方、サービス業は改善を見通している。製造業は横ばいを見通している。

	前期(7~9月)		(C)	今期(10~12月)		
	(A)	来期見通(10~12月)(B)		前期比(C)-(A)	来期見通(1~3月)(D)	今期比(D)-(C)
全産業	▲ 6.9	▲ 8.8	▲ 3.4	+3.5	▲ 6.9	-3.5
建設業	9.3	7.0	4.7	-4.6	2.3	-2.4
製造業	▲ 9.3	▲ 11.6	▲ 12.2	-2.9	▲ 12.2	0.0
卸売業	▲ 25.6	▲ 12.8	▲ 2.4	+23.2	▲ 16.3	-13.9
小売業	▲ 24.4	▲ 24.4	▲ 10.5	+13.9	▲ 15.7	-5.2
サービス業	15.4	▲ 2.6	2.6	-12.8	7.7	+5.1



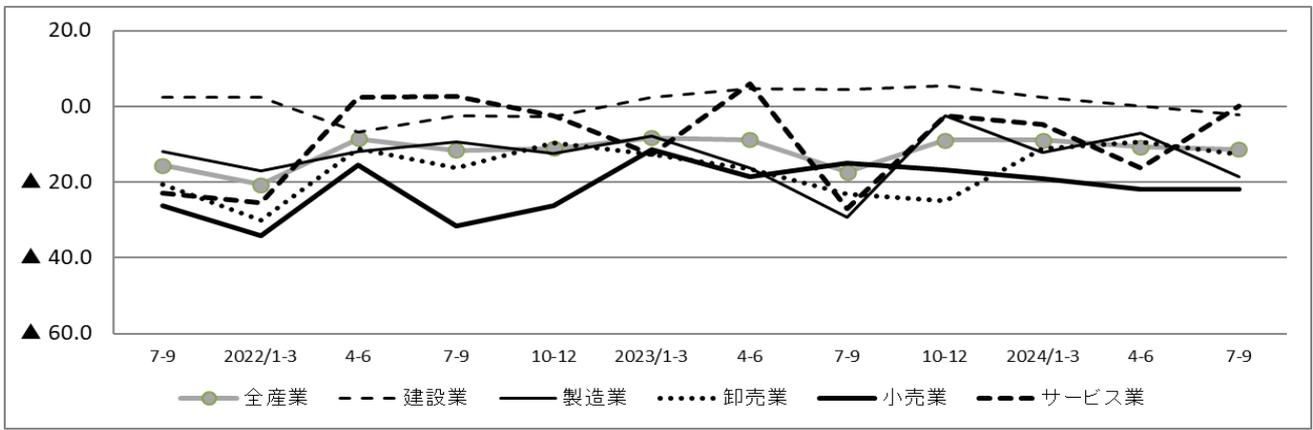
## 3. 資金繰り

今期(10~12月前年同期比)の資金繰りのD I値は、全産業で▲7.9と前期と比べ改善した。産業別では、サービス業が大幅に悪化した一方、製造業は大幅に改善、小売業と卸売業も改善、建設業もわずかながら改善した。

来期の見通し(1~3月)では、全産業で▲5.4と今期と比べわずかながら改善を見通している。

産業別では、小売業がわずかながら悪化を見通す一方、製造業とサービス業は改善、卸売業もわずかながら改善を見通している。建設業は横ばいを見通している。

	前期(7~9月)		(C)	今期(10~12月)		
	(A)	来期見通(10~12月)(B)		前期比(C)-(A)	来期見通(1~3月)(D)	今期比(D)-(C)
全産業	▲ 11.3	▲ 11.2	▲ 7.9	+3.4	▲ 5.4	+2.5
建設業	▲ 2.3	▲ 7.0	0.0	+2.3	0.0	0.0
製造業	▲ 18.6	▲ 14.0	▲ 2.4	+16.2	4.9	+7.3
卸売業	▲ 12.8	▲ 12.8	▲ 9.3	+3.5	▲ 7.0	+2.3
小売業	▲ 21.9	▲ 22.0	▲ 13.1	+8.8	▲ 15.8	-2.7
サービス業	0.0	0.0	▲ 15.4	-15.4	▲ 10.2	+5.2



4. 受注残（未消化工事高）

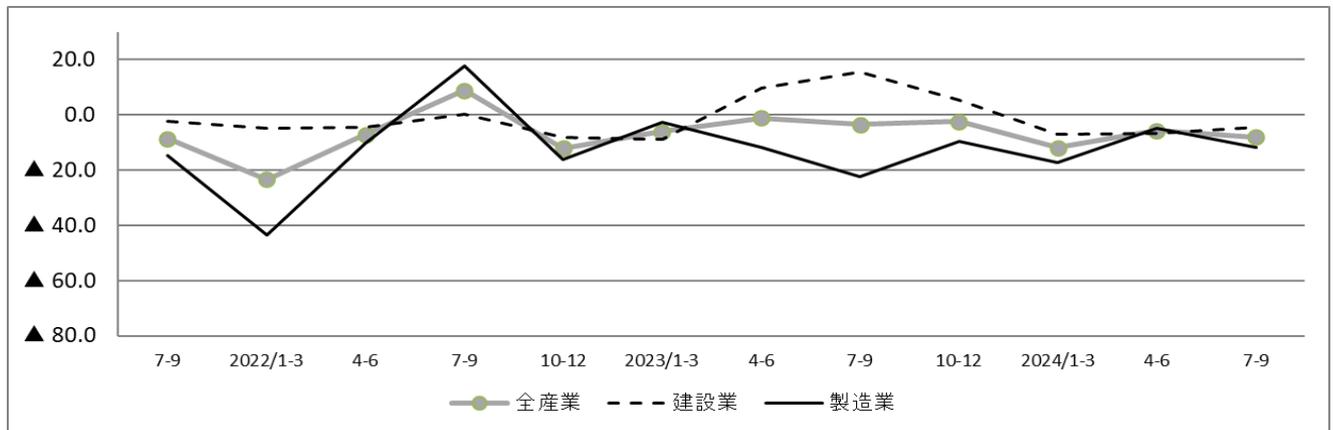
今期（10～12月前年同期比）の受注残のDI値は、全産業で▲5.9と前期と比べわずかながら改善した。

産業別では、製造業が改善、建設業は横ばいであった。

来期の見通し（1～3月）では、全産業で▲3.6と今期と比べわずかながら改善を見通している。

産業別では、建設業と製造業ともにわずかながら改善を見通している。

	前期（7～9月）		今期（10～12月）			
	(A)	来期見通 (10～12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1～3月) (D)	今期比 (D)-(C)
		(B)				
全産業	▲ 8.2	▲ 9.3	▲ 5.9	+2.3	▲ 3.6	+2.3
建設業	▲ 4.7	▲ 9.3	▲ 4.7	0.0	▲ 2.4	+2.3
製造業	▲ 11.7	▲ 9.3	▲ 7.3	+4.4	▲ 4.9	+2.4



5. 採算（経常利益）

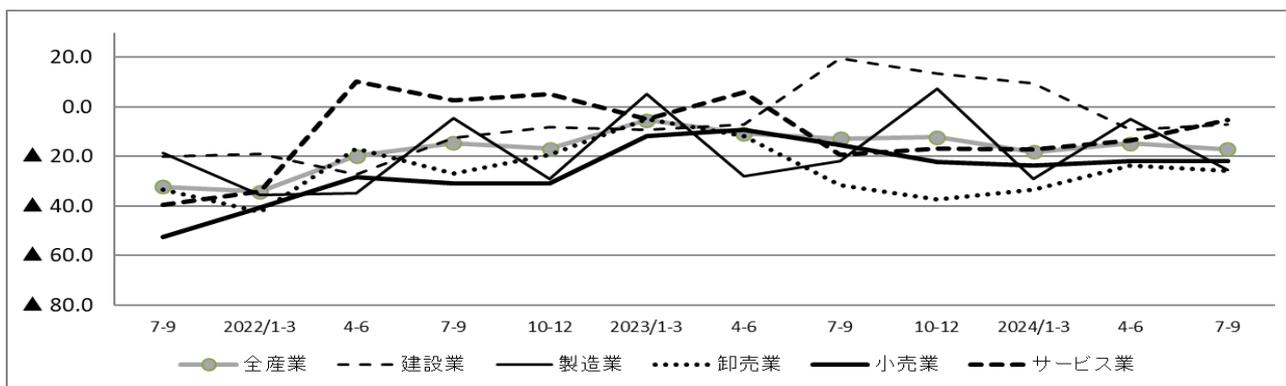
今期（10～12月前年同期比）の採算のDI値は、全産業で▲9.8と前期と比べ改善した。

産業別では、サービス業が悪化した一方、製造業は大幅に改善、卸売業、小売業、建設業も改善した。

来期の見通し（1～3月）では、全産業で▲12.2と今期と比べわずかながら悪化を見通している。

産業別では、建設業と卸売業は悪化、サービス業もわずかながら悪化を見通す一方、製造業は改善、小売業もわずかながら改善を見通している。

	前期(7~9月)		今期(10~12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月)	
		(B)			(D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 17.1	▲ 12.2	▲ 9.8	+7.3	▲ 12.2	-2.4
建設業	▲ 7.0	▲ 2.3	▲ 2.3	+4.7	▲ 14.0	-11.7
製造業	▲ 25.6	▲ 9.3	▲ 9.7	+15.9	2.4	+12.1
卸売業	▲ 25.7	▲ 17.9	▲ 11.6	+14.1	▲ 23.2	-11.6
小売業	▲ 21.9	▲ 19.5	▲ 13.1	+8.8	▲ 10.5	+2.6
サービス業	▲ 5.2	▲ 12.8	▲ 12.8	-7.6	▲ 15.4	-2.6



## 6. 従業員（含む臨時）

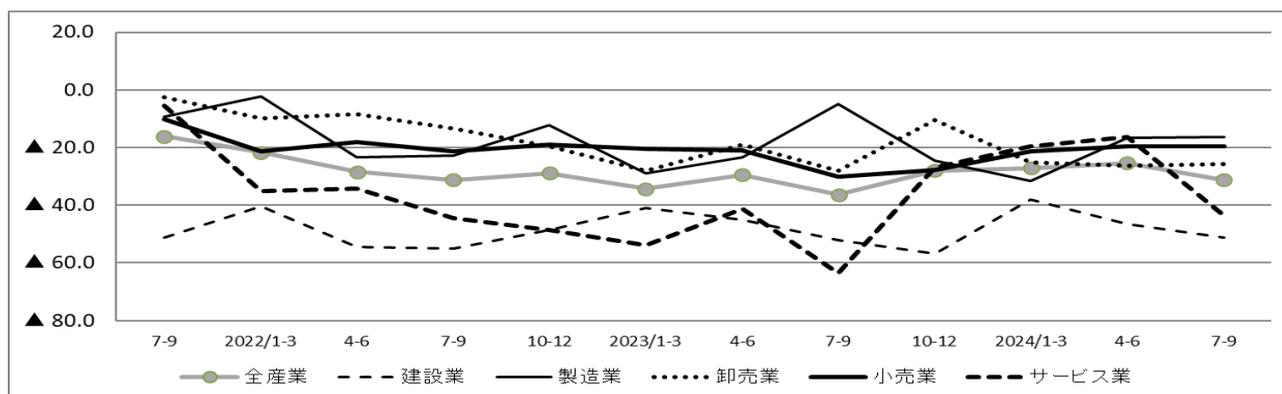
今期(10~12月前年同期比)の従業員のDI値は、全産業で▲27.0と前期と比べ不足感を縮小した。

産業別では、サービス業がわずかながら不足感を拡大する一方、小売業、製造業、建設業、卸売業は不足感を縮小した。

来期の見通し(1~3月)では、全産業で▲23.1と今期と比べ不足感の縮小を見通している。

産業別では、卸売業が不足感の拡大を見通す一方、サービス業は大幅に不足感を縮小、製造業も不足感の縮小を、小売業と建設業もわずかながら不足感の縮小を見通している。

	前期(7~9月)		今期(10~12月)			
	(A)	来期見通 (10~12月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月)	
		(B)			(D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 31.2	▲ 29.3	▲ 27.0	+4.2	▲ 23.1	+3.9
建設業	▲ 51.2	▲ 46.5	▲ 46.5	+4.7	▲ 44.2	+2.3
製造業	▲ 16.3	▲ 16.3	▲ 9.7	+6.6	▲ 4.9	+4.8
卸売業	▲ 25.6	▲ 28.2	▲ 21.0	+4.6	▲ 25.6	-4.6
小売業	▲ 19.5	▲ 14.6	▲ 10.5	+9.0	▲ 7.9	+2.6
サービス業	▲ 43.6	▲ 41.0	▲ 46.1	-2.5	▲ 30.8	+15.3



## II. 産業別D I 値

### 1. 建設業

今期(10~12月前年同期比)の項目別D I 値は、業況が4.7と前期と比べ改善した。

項目別では、完成工事額が悪化した一方、採算は改善、資金繰りもわずかながら改善した。受注残は横ばいであった。従業員は不足感を縮小した。

企業からは、「昨年度は大雨災害の復旧工事があったが、その分今期は減少している」(設備工事)や、「前年よりは工事額は減少しているが、4月~9月までの余力部分で何とかやっている状況」(職別工事)とのコメントがあった。

来期の見通し(1~3月)では、業況が▲2.4と今期と比べ悪化を見通している。

項目別では、採算が悪化、完成工事額もわずかながら悪化を見通す一方、受注残はわずかながら改善を見通している。資金繰りは横ばいを見通している。従業員はわずかながら不足感の縮小を見通している。

企業からは、「工事価格の高騰により、設備投資を控える心配がある」(設備工事)や、「工事が予想以上に遅れ、それに伴って経費がかかり赤字が予想される」(職別工事)とのコメントがあった。

	前期(7~9月)		(C)	今期(10~12月)		
	(A)	来期見通し(10~12月)(B)		前期比(C)-(A)	来期見通(1~3月)(D)	今期比(D)-(C)
業況	▲ 7.0	▲ 2.3	4.7	+11.7	▲ 2.4	-7.1
完成工事額	9.3	7.0	4.7	-4.6	2.3	-2.4
資金繰り	▲ 2.3	▲ 7.0	0.0	+2.3	0.0	0.0
受注残	▲ 4.7	▲ 9.3	▲ 4.7	0.0	▲ 2.4	+2.3
採算(経常利益)	▲ 7.0	▲ 2.3	▲ 2.3	+4.7	▲ 14.0	-11.7
従業員(含む臨時)	▲ 51.2	▲ 46.5	▲ 46.5	+4.7	▲ 44.2	+2.3

### 2. 製造業

今期(10~12月前年同期比)の項目別D I 値は、業況が▲9.7と前期と比べ改善した。

項目別では、完成工事額はわずかながら悪化した一方、資金繰りと採算は大幅な改善、受注残も改善した。従業員は不足感を縮小した。

企業からは、「競合店の進出と諸物価上昇の影響を受け、買い控えも発生。売上が前年比大幅減少。さらに資材及び原料・人件費が増加し、収支が大幅に悪化している」(食品・飲料品)とのコメントがあった。

来期の見通し(1~3月)では、業況は▲2.5で今期と比べ改善を見通している。

項目別では、採算と資金繰りは改善、受注残もわずかながら改善、完成工事額は横ばいを見通している。従業員は不足感の縮小を見通している。

企業からは、「経常利益はやや好転する見込みだが、亜鉛価格と生産量により変化すると思われる」(鉄鋼・非鉄金属・金属製品・一般機械器具・電気機械器具)とのコメントがあった。

	前期(7~9月)		(C)	今期(10~12月)		
	(A)	来期見通し(10~12月)(B)		前期比(C)-(A)	来期見通(1~3月)(D)	今期比(D)-(C)
業況	▲ 16.3	▲ 9.3	▲ 9.7	+6.6	▲ 2.5	+7.2
完成工事額	▲ 9.3	▲ 11.6	▲ 12.2	-2.9	▲ 12.2	0.0
資金繰り	▲ 18.6	▲ 14.0	▲ 2.4	+16.2	4.9	+7.3
受注残	▲ 11.7	▲ 9.3	▲ 7.3	+4.4	▲ 4.9	+2.4
採算(経常利益)	▲ 25.6	▲ 9.3	▲ 9.7	+15.9	2.4	+12.1
従業員(含む臨時)	▲ 16.3	▲ 16.3	▲ 9.7	+6.6	▲ 4.9	+4.8

### 3. 卸売業

今期(10~12月前年同期比)の項目別D I値は、業況が▲16.3と前期と比べ改善した。

項目別では、売上額がプラス23.2ポイントと大幅な改善、採算と資金繰りも改善した。従業員は不足感を縮小した。

企業からは、「値上げ等により、売上は伸びているが、営業利益が売上の伸びに比べて見劣りする」(医薬品・化粧品)とのコメントがあった。

来期の見通し(1~3月)では、業況が▲16.3と今期と比べ横ばいを見通している。

項目別では、売上額と採算は悪化を見通している一方、資金繰りはわずかながら改善を見通している。従業員は不足感の拡大を見通している。

企業からは、「農家の減少に伴う数量減、また天候による高単価を見込む」(食料・水産物飲料品等)や「積雪量が売上増減に影響してくると思う」(食料・水産物飲料品等)とのコメントがあった。

	前期(7~9月)		(C)	今期(10~12月)		
	(A)	来期見通し(10~12月)(B)		前期比(C)-(A)	来期見通(1~3月)(D)	今期比(D)-(C)
業況	▲ 20.5	▲ 15.4	▲ 16.3	+4.2	▲ 16.3	0.0
売上額	▲ 25.6	▲ 12.8	▲ 2.4	+23.2	▲ 16.3	-13.9
資金繰り	▲ 12.8	▲ 12.8	▲ 9.3	+3.5	▲ 7.0	+2.3
採算(経常利益)	▲ 25.7	▲ 17.9	▲ 11.6	+14.1	▲ 23.2	-11.6
従業員(含む臨時)	▲ 25.6	▲ 28.2	▲ 21.0	+4.6	▲ 25.6	-4.6

### 4. 小売業

今期(10~12月前年同期比)の項目別D I値は、業況が▲10.5と前期と比べて大幅に改善した。

項目別では、すべての項目でプラスとなり、売上額、資金繰り、採算は改善した。従業員は不足感を縮小した。

企業からは、「去年より卸売の売上が好調のようで、自社もその恩恵にあずかり好調であった。年末はやはり一番ものが動く時期である」(食料・飲食料品等)とのコメントがあった。

来期の見通し(1~3月)では、業況が0.0と今期と比べ改善を見通している。

項目別では、売上額が悪化、資金繰りがわずかながら悪化を見通す一方、採算はわずかながら改善を見通している。従業員はわずかながら不足感の縮小を見通している。

企業からは、「物価上昇が賃金アップに追い付いていないため、売上増は見込めない」(織物・衣服・身の回り品・文具等)や「燃料油が単価上見込みではあるが、買い控えにより前年並みを見込む」(自動車・自転車・燃料)とのコメントがあった。

	前期(7~9月)		(C)	今期(10~12月)		
	(A)	来期見通し(10~12月)(B)		前期比(C)-(A)	来期見通(1~3月)(D)	今期比(D)-(C)
業況	▲ 34.1	▲ 19.5	▲ 10.5	+23.6	0.0	+10.5
売上額	▲ 24.4	▲ 24.4	▲ 10.5	+13.9	▲ 15.7	-5.2
資金繰り	▲ 21.9	▲ 22.0	▲ 13.1	+8.8	▲ 15.8	-2.7
採算(経常利益)	▲ 21.9	▲ 19.5	▲ 13.1	+8.8	▲ 10.5	+2.6
従業員(含む臨時)	▲ 19.5	▲ 14.6	▲ 10.5	+9.0	▲ 7.9	+2.6

## 5. サービス業

今期(10~12月前年同期比)の項目別D I値は、業況が▲15.4と前期と比べ大幅に悪化した。

項目別では、全項目で悪化となり、資金繰りが大幅に悪化、売上額と採算も悪化した。従業員はわずかながら不足感を拡大した。

企業からは、「コロナ禍が終了し好転すると考えていたのだが、今期少し苦戦をしている。ニーズの変化に今後対応していきたいと考える」(情報サービス)や、「金利上昇、最賃のUP、作業用品等仕入単価の値上がりのため、利益が十分に確保できていない」(広告・専門サービス・写真)とのコメントがあった。

来期の見通し(1~3月)では、業況が▲7.7と今期と比べ改善を見通している。

項目別では、採算がわずかながら悪化を見通す一方、資金繰り、売上額は改善を見通している。従業員は大幅に不足感の縮小を見通している。

企業からは、「売上は同水準見込みである。採算は人件費向上により悪化」(広告・専門サービス・写真)や、「人件費の増加で利益確保が難しい」(旅館・ホテル・洗濯・理・美容)とのコメントがあった。

	前期(7~9月)		(C)	今期(10~12月)		
	(A)	来期見通し (10~12月) (B)		前期比 (C)-(A)	来期見通(1~3月) (D)	今期比 (D)-(C)
業 況	2.6	2.6	▲ 15.4	-18.0	▲ 7.7	+7.7
売 上 額	15.4	▲ 2.6	2.6	-12.8	7.7	+5.1
資 金 繰 り	0.0	0.0	▲ 15.4	-15.4	▲ 10.2	+5.2
採算(経常利益)	▲ 5.2	▲ 12.8	▲ 12.8	-7.6	▲ 15.4	-2.6
従業員(含む臨時)	▲ 43.6	▲ 41.0	▲ 46.1	-2.5	▲ 30.8	+15.3

### Ⅲ. 設備投資

全産業における今期（10～12月前年同期比）の設備投資について、全産業で「実施した」とする企業は72件となり、前期と比べ2件減少した。

産業別では、「実施した」とする中で最も多かったのは、建設業（18件）、次いで製造業（16件）、サービス業（14件）の順となっている。

今期に「実施した」企業の設備内容で最も多かったのは、「車両・運搬具」「OA機器」（25件）、次いで「機械・設備・倉庫」（15件）、「付帯施設」（10件）の順となっている。

来期（1～3月）の計画では、全産業で「計画している」とする企業は、60件となっている。

産業別では、「計画している」とした中で最も多かったのは、サービス業（20件）、次いで製造業（14件）、建設業と卸売業（10件）の順となっている。

来期に「計画している」企業の設備内容については、「車両・運搬具」（22件）、次いで「機械・設備・倉庫」（16件）、「建物・工事・店舗」「OA機器」（12件）の順となっている。

#### 設備投資状況

（▲印：減、件数）

	前期（7～9月）				今期（10～12月）					
	実施した (A)	実施しない	来期の計画（10～12月）		実施した (C)	実施しない	前期比 (※) (C-A)	来期の計画（1～3月）		今期比 (D-C)
			計画している (B)	計画していない				計画している (D)	計画していない	
全産業	74	131	62	143	72	132	▲ 2	60	143	▲ 12
建設業	18	25	9	34	18	25	0	10	33	▲ 8
製造業	21	22	13	30	16	25	▲ 5	14	27	▲ 2
卸売業	9	30	10	29	13	30	4	10	32	▲ 3
小売業	11	30	11	30	11	27	0	6	32	▲ 5
サービス業	15	24	19	20	14	25	▲ 1	20	19	6

#### 設備内容（複数回答）

（件数）

	全産業		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	今期	来期	今期	来期								
① 土地	5	3	1	0	1	0	1	0	1	0	1	3
② 建物・工場・店舗	8	12	1	2	1	0	2	3	2	4	2	3
③ 機械・設備・倉庫	15	16	0	0	10	9	0	1	2	0	3	6
④ 車両・運搬具	25	22	6	5	3	3	5	3	4	2	7	9
⑤ 付帯施設	10	10	2	3	2	0	3	3	1	0	2	4
⑥ OA機器	25	12	9	3	3	3	4	3	5	0	4	3
⑦ 福利厚生施設	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
⑧ その他	5	3	2	0	1	1	0	0	1	0	1	2
合計	94	79	21	13	21	16	15	13	16	6	21	31

#### IV. 経営上の問題点

産業別における「経営上の問題点」は、建設業とサービス業が「従業員の確保難」、製造業が「原材料価格の上昇」、製造業と卸売業が「需要の停滞」、小売業が「消費者ニーズの変化への対応」「仕入単価の上昇」を第1位に挙げている。

2位以下の項目では、建設業が「材料価格の上昇」、建設業と卸売業が「従業員の確保難」、製造業が「原材料価格の上昇」、製造業、小売業、サービス業が「人件費の増加」、卸売業が「仕入単価の上昇」、小売業が「需要の停滞」、サービス業が「燃料代の負担増加」を挙げており、人員確保、人件費や仕入単価の上昇、物価や燃料代高騰などによる人件費以外の経営コストの上昇等が経営課題となっていることが窺える。

	1 位		2 位		3 位	
建設業	従業員の確保難		材料価格の上昇		従業員の確保難	
	30%	(12件)	0.2	(6件)	22.6%	(7件)
製造業	原材料価格の上昇 需要の停滞		原材料価格の上昇		人件費の増加	
	32.4%	(12件)	22.9%	(8件)	24.2%	(8件)
卸売業	需要の停滞		仕入単価の上昇		従業員の確保難	
	23.8%	(10件)	31%	(13件)	33.3%	(11件)
小売業	消費者ニーズの変化への対応 仕入単価の上昇		需要の停滞		人件費の増加	
	14.3%	(5件)	18.2%	(6件)	17.9%	(5件)
サービス業	従業員の確保難		人件費の増加		燃料代の負担増加	
	35.1%	(13件)	23.5%	(8件)	19.4%	(6件)

\*%は1位、2位、3位それぞれの回答数(=100%)の割合を示したものの。

参考：1～3位を累計した場合

	1 位		2 位		3 位	
建設業	従業員の確保難		材料価格の上昇		人件費の増加	
	21.8%	(24件)	19.1%	(21件)	10.9%	(12件)
製造業	原材料価格の上昇		人件費の増加 需要の停滞		原材料費・人件費以外の 経費の増加	
	21%	(22件)	14.3%	(15件)	11.4%	(12件)
卸売業	仕入単価の上昇		人件費の増加		従業員の確保難	
	19.7%	(23件)	15.4%	(18件)	13.7%	(16件)
小売業	需要の停滞		人件費の増加		販売単価の低下・上昇難 仕入単価の上昇	
	12.5%	(12件)	11.5%	(11件)	10.4%	(10件)
サービス業	従業員の確保難		人件費の増加		材料等仕入単価の上昇	
	17.6%	(18件)	13.7%	(14件)	10.8%	(11件)

\*%は1位から3位までの総回答数(=100%)の割合を示したものの。

【付帯調査】

◎人材不足・確保・募集に係る調査

V. 従業員数の増減について ※（ ）は2023年10～12月期調査時の割合

・従業員数の増減について聞いたところ、回答のあった204社中、③「変化なし」が91社44.6%（43.8%）と最も多かった。次いで、④「減少した（1～4人以下の減少）」が56社27.4%（27.6%）、②「増加した（1～4人以下の増加）」が42社20.6%（18.7%）の順となり、前回調査時と比べ大きな変動は見られなかった。

選 択 肢	件数	構成比	前回構成比
① 大幅に増加した（5人以上の増加）	4	2.0%	3.0%
② 増加した（1～4人以下の増加）	42	20.6%	18.7%
③ 変化なし	91	44.6%	43.8%
④ 減少した（1～4人以下の減少）	56	27.4%	27.6%
⑤ 大幅に減少した（5人以下の減少）	11	5.4%	6.9%
合 計	204	100.0%	100.0%

VI. 採用活動の状況について ※（ ）は2023年10～12月期調査時の割合

・採用活動の状況について聞いたところ、回答のあった204社中、②「採用が難しくなっている」が88件43.1%（58.1%）と最も多く、次いで④「比較的採用できている」36件17.6%（6.9%）、⑥「採用を行っていないのでわからない」が28件13.7%（12.3%）の順となった。

選 択 肢	件数	構成比	前回構成比
① 全く採用できていない	23	11.3%	10.3%
② 採用が難しくなっている	88	43.1%	58.1%
③ 十分採用できている	5	2.5%	1.0%
④ 比較的採用できている	36	17.6%	7.0%
⑤ 変わらない	24	11.8%	11.3%
⑥ 採用を行っていないのでわからない	28	13.7%	12.3%
合 計	204	100.0%	100.0%

VII. 人材募集の方法について（複数回答） ※（ ）は2023年10～12月期調査時の割合

・人材募集の方法について聞いたところ、①「ハローワーク」が158社77.5%（90.1%）、⑪「高齢者の継続雇用」が65社31.9%（36.5%）、⑤「自社のホームページへの掲載」が51社25.0%（30.5%）の順となった。

選 択 肢	件数	構成比	前回構成比
① ハローワーク	158	77.5%	90.1%
② 人材サービス会社（民間の職業紹介機関）	35	17.2%	12.8%
③ 求人紙媒体（就職情報誌、新聞折り込みチラシ等）	21	10.3%	14.8%
④ 求人W e b媒体（就職サイト等）	37	18.1%	24.6%
⑤ 自社のホームページへの掲載	51	25.0%	30.5%

⑥ ソーシャルリクルーティング（Facebook等SNS活用等）	4	2.0%	5.4%
⑦ 会社説明会の開催・参加（合同説明会を含む）	39	19.1%	20.7%
⑧ 知人・友人等からの紹介（縁故採用）	44	21.6%	27.6%
⑨ 非正社員の正社員転換	13	6.4%	8.9%
⑩ 定年退職者の再雇用	45	22.1%	34.0%
⑪ 高齢者の継続雇用	65	31.9%	36.5%
⑫ その他	18	8.8%	2.0%

## ○その他のコメント

### ・製造業

- ・ 諸物価、資材等の値上げや最低賃金の変更による人件費の増加により、収支が非常に厳しい状況下にある。収支確保のため人件費削減を検討中。賃上げに対する補助金などの支援を要望したい（設備等に関係ない支援）（食品・飲料品）
- ・ 募集を行っていない（食品・飲料品）

### ・卸売業

- ・ 特に考えていない（食料・水産物飲料品等）
- ・ 自社で東南アジア諸国へ向け募集活動を行っている（食料・水産物飲料品等）

### ・小売業

- ・ 特には行っていない（食品・飲料品等）
- ・ ハローワークからの求人が減少し、求人サイトからの募集や採用は資金負担が大きく、費用が増大している（織物・衣服・身の回り品・文具等）
- ・ 現在は募集を行っていない（織物・衣服・身の回り品・文具等）

### ・サービス業

- ・ 家族経営のため募集は行っていない（広告・専門サービス・写真）

## Ⅸ. 人材確保の課題や要望等について（自由記入）

### ・建設業

- ・ 仕事柄、夜間作業で常時（一年中）青森や山形の電車線の工事を請け負っている。各駅に番って作業時間は異なり、主に車移動のため時間を要しているが、作業時間自体はあまり長時間ではない。だが、今の若い方は夜間作業に魅力を感じていない様子で、難儀である（設備工事）
- ・ 生徒数の減少や進学率の増加により、採用は年々厳しくなっている。会社説明会（大手は除く）を数多く開催していただき、会社を学生に知ってほしい（設備工事）
- ・ 県北・県南地区の人材確保、即戦力となるスキルを持った中途やAターン者の確保が課題である（設備工事）
- ・ 働き方や休日について課題がある（職別工事）
- ・ 勤務地や職種により採用数にばらつきが大きい（総合工事）
- ・ 作業員の高齢化が進む中、若年層の受け入れも難しいので苦労している。来期は新卒の受け入れを考えている（総合工事）

### ・製造業

- ・ 人口減少が続く限り、人材確保ができない企業が廃業すると思われる（出版・印刷・同関連産業）
- ・ 数年前と比較して、新卒・中途問わず採用が厳しくなっていると感じる。魅力ある企業であるための施策を検討中である（鉄鋼・非鉄金属・金属製品・一般機械器具・電気機械器具）
- ・ 理系知識を必要とする部署では、新規採用（中途含む）が難儀している（鉄鋼・非鉄金

属・金属製品・一般機械器具・電気機械器具)

- ・新卒者を採用しても離職する人も多いので、最近は中途採用を中心としている。Uターン者やAターン者の情報が欲しいところ（鉄鋼・非鉄金属・金属製品・一般機械器具・電気機械器具）

#### ・卸売業

- ・中途採用の即戦力採用が難しい（食料・水産物飲料品等）
- ・非常に雇用が困難な状況である（その他）

#### ・小売業

- ・当店は1~2時間労働の求人について、スキマバイトを実施している。効率が良く、働いているみなさんは頑張ってくれている状況（織物・衣服・身の回り品・文具等）
- ・若年者の応募が少なく、採用や教育に苦慮している（食料・飲食料品等）
- ・賃金を上げたいのはやまやまだが、業種や企業規模により自ずと条件は変わるので難しい。もちろん、企業努力は必要であると思う（食料・飲食料品等）
- ・県内出身の学生が少なく、採用人数に限られる（業界で採用数確保に向けいろいろ手をつけているが成果が出ない）（自動車・自転車・燃料）

#### ・サービス業

- ・社員全体が高齢化しており、この先人材確保が重要であるが、なかなか難しい状況である（運輸・物品賃貸）
- ・賃金や労働時間の面で募集しても応募が来ない。従業員の年齢も高齢な方ばかりになってきており、若い人材が必要だが確保できないでいる（運輸・物品賃貸）
- ・人材確保に成果をあげている事例をフィードバックしてほしい（広告・専門サービス・写真）
- ・若い人の応募が少ないために、従業員の高齢化が進んでいる（広告・専門サービス・写真）
- ・自動車整備士の紹介をしていただきたい（自動車整備業・機械修理）
- ・課題が山積している（自動車整備業・機械修理）

秋田市内企業景況調査結果（業種別比較表）  
（第3四半期：2024年10月～12月）

1. 今期の状況

業種	項目	業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	実数	28	129	47	54	89	61	18	152	34	14	51	19	35	114	55	8	133	63
	%	13.7	63.2	23.0	26.5	43.6	29.9	8.8	74.5	16.7	16.7	60.7	22.6	17.2	55.9	27.0	3.9	65.2	30.9
	DI	▲ 9.3			▲ 3.4			▲ 7.9			▲ 5.9			▲ 9.8			▲ 27.0		
建設業	実数	7	31	5	14	17	12	4	35	4	9	23	11	6	30	7	2	19	22
	%	16.3	72.1	11.6	32.6	39.5	27.9	9.3	81.4	9.3	20.9	53.5	25.6	14.0	69.8	16.3	4.7	44.2	51.2
	DI	4.7			4.7			0.0			▲ 4.7			▲ 2.3			▲ 46.5		
製造業	実数	4	29	8	8	20	13	4	32	5	5	28	8	7	23	11	2	33	6
	%	9.8	70.7	19.5	19.5	48.8	31.7	9.8	78.0	12.2	12.2	68.3	19.5	17.1	56.1	26.8	4.9	80.5	14.6
	DI	▲ 9.7			▲ 12.2			▲ 2.4			▲ 7.3			▲ 9.7			▲ 9.7		
卸売業	実数	5	26	12	9	24	10	5	29	9				7	24	12	1	32	10
	%	11.6	60.5	27.9	20.9	55.8	23.3	11.6	67.4	20.9				16.3	55.8	27.9	2.3	74.4	23.3
	DI	▲ 16.3			▲ 2.4			▲ 9.3						▲ 11.6			▲ 21.0		
小売業	実数	7	20	11	9	16	13	2	29	7				6	21	11	2	30	6
	%	18.4	52.6	28.9	23.7	42.1	34.2	5.3	76.3	18.4				15.8	55.3	28.9	5.3	78.9	15.8
	DI	▲ 10.5			▲ 10.5			▲ 13.1						▲ 13.1			▲ 10.5		
サービス業	実数	5	23	11	14	12	13	3	27	9				9	16	14	1	19	19
	%	12.8	59.0	28.2	35.9	30.8	33.3	7.7	69.2	23.1				23.1	41.0	35.9	2.6	48.7	48.7
	DI	▲ 15.4			2.6			▲ 15.4						▲ 12.8			▲ 46.1		

※DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。  
：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。（H29. 4月より）

秋田市市内企業景況調査結果(業種別比較表)  
(第3四半期:2024年10月~12月)

2. 来期の見通し

業種	項目	業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	実数	26	140	38	39	112	53	16	161	27	10	61	13	25	129	50	9	139	56
	%	12.7	68.6	18.6	19.1	54.9	26.0	7.8	78.9	13.2	11.9	72.6	15.5	12.3	63.2	24.5	4.4	68.1	27.5
	DI	▲ 5.9			▲ 6.9			▲ 5.4			▲ 3.6			▲ 12.2			▲ 23.1		
建設業	実数	5	32	6	12	20	11	3	37	3	9	24	10	5	27	11	1	22	20
	%	11.6	74.4	14.0	27.9	46.5	25.6	7.0	86.0	7.0	20.9	55.8	23.3	11.6	62.8	25.6	2.3	51.2	46.5
	DI	▲ 2.4			2.3			0.0			▲ 2.4			▲ 14.0			▲ 44.2		
製造業	実数	3	34	4	5	26	10	3	37	1	1	37	3	6	30	5	2	35	4
	%	7.3	82.9	9.8	12.2	63.4	24.4	7.3	90.2	2.4	2.4	90.2	7.3	14.6	73.2	12.2	4.9	85.4	9.8
	DI	▲ 2.5			▲ 12.2			4.9			▲ 4.9			2.4			▲ 4.9		
卸売業	実数	4	28	11	4	28	11	4	32	7				3	27	13	1	30	12
	%	9.3	65.1	25.6	9.3	65.1	25.6	9.3	74.4	16.3				7.0	62.8	30.2	2.3	69.8	27.9
	DI	▲ 16.3			▲ 16.3			▲ 7.0						▲ 23.2			▲ 25.6		
小売業	実数	8	22	8	5	22	11	3	26	9				5	24	9	2	31	5
	%	21.1	57.9	21.1	13.2	57.9	28.9	7.9	68.4	23.7				13.2	63.2	23.7	5.3	81.6	13.2
	DI	0.0			▲ 15.7			▲ 15.8						▲ 10.5			▲ 7.9		
サービス業	実数	6	24	9	13	16	10	3	29	7				6	21	12	3	21	15
	%	15.4	61.5	23.1	33.3	41.0	25.6	7.7	74.4	17.9				15.4	53.8	30.8	7.7	53.8	38.5
	DI	▲ 7.7			7.7			▲ 10.2						▲ 15.4			▲ 30.8		

※DI値:「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

:従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。(H29. 4月より)

# 参考

## 市内景況調査に対する各企業のコメント

### I 今期の特徴 (2024年10-12月)

#### 1 建設業

- ・完成工事額が減少するも、粗利率アップにより経常利益は横ばいである（総合工事）
- ・人手不足や働き方改革により、工期が長くなった（設備工事）
- ・大きな完成工事はなかった（総合工事）
- ・昨年の水害復旧も落ち着いた（総合工事）
- ・完成工事額は増加したが、通常より経常利益が減った。原材料価格の上昇が原因である（総合工事）
- ・11、12月に売り上げが伸びた。受注増でも無事故で安全な作業を心掛けている（設備工事）
- ・元請けの工事単価上昇により、完成工事高も増加した（設備工事）
- ・夏以降、発注の減少が見られた（職別工事）
- ・昨年度は大雨災害の復旧工事があったが、その分今期は減少している（設備工事）
- ・今期の完工高は年内完工高の過半数を占めていた（設備工事）
- ・特許工事が増加している（職別工事）
- ・賃上げをしても物価高で、手取りが少なくなる一方である（設備工事）
- ・波が激しいと感じる（総合工事）
- ・前年よりは工事額は減少しているが、4月～9月までの余力の部分で何とかやっている状況（職別工事）
- ・手持ち工事が減少して受注に向けて頑張ろうと思う（総合工事）
- ・工事が順調に進み、経費を抑えることができ、採算が取れた（職別工事）

#### 2 製造業

- ・在庫調整により、生産量は見込みより減少したが、亜鉛価格の上昇と電力価格の低下により、経常利益は好転（鉄鋼・非鉄金属・金属製品・一般機械器具・電気機械器具）
- ・引き続き、本社からの委託物件の対応がメインとなっている（鉄鋼・非鉄金属・金属製品・一般機械器具・電気機械器具）
- ・秋の新製品とリニューアル製品が不振製品の売上減少をカバーしており、売上は前年+ $\alpha$ で推移。チャネル別では業務用は店数の減少、消費者のスタイルの変化によりコロナ前には戻っていない、家庭用は依然として生活防衛意識が高いままである。輸出は二桁増で好調。米の高騰が著しく、採算の悪化が懸念される。（食品・飲料品）
- ・12月に入って受注は若干回復したが、10～11月の受注が減少したため売上額は減少した（鉄鋼・非鉄金属・金属製品・一般機械器具・電気機械器具）
- ・主力である半導体業界の受注の変動の大きさや不安定さを感じている（その他）
- ・スポット物は少ないが、安定していたと思う（出版・印刷・同関連産業）
- ・競合店の進出と諸物価上昇の影響を受け、買い控えも発生。売上が前年比大幅減少。さらに資材及び原料・人件費が増加し、収支が大幅に悪化している（食品・飲料品）

#### 3 卸売業

- ・値上げ等により、売上は伸びているが、営業利益が売り上げの伸びに比べて見劣りする（医薬品・化粧品）
- ・売上は減少傾向にあるが、原価管理の徹底により粗利良化。経費は引き続き増加傾向（食料・水産物飲料品等）
- ・少子高齢化によるマーケット自体の縮小傾向の中、生産者減少・生産コスト増加等により経営環境は厳しさを増している状況。価格転嫁も困難であり、今後とも業況は厳しい（食料・水産物飲料品等）

- ・単価高により数量減であるが、売上高は不変。経費（運賃等）かかり増しにより利益悪化（食料・水産物飲料品等）
- ・支払い先行のため、資金ショート傾向（その他）

#### 4 小売業

- ・物価高のため不景気。消費者の購買意欲が低下してきており、売上にマイナスの影響を与えた（織物・衣服・身の回り品・文具等）
- ・分散から集中に舵を切り、店舗統合により採算を図った（その他）
- ・降雪が遅く、暖房用の油が動かない。12月の補助金減額による駆け込みと買い控えが不安（自動車・自転車・燃料）
- ・好天が多く気温も温かいことから、自転車・ストーブの販売修理が伸び、在庫数は減少になっている。春夏のマイナスをカバーできている。来期にも期待したい（自動車・自転車・燃料）
- ・商品の問題により、改良が先送りとなり新規受注可能が限定的となっていることから受注量が減少となり減収・減益となった（自動車・自転車・燃料）
- ・去年より卸売の売上が好調のようで、自社もその恩恵にあずかり好調であった。年末はやはり一番ものが動く時期である（食料・飲食料品等）
- ・年末の年賀印刷受注減であり、デジタル化による年賀状じまいが進む（その他）

#### 5 サービス業

- ・秋田市内の公共工事の発注が増加した分、土木工事も前年度からプラスとなっている（運輸・物品賃貸）
- ・現状維持に努めることが精一杯であった（広告・専門サービス・写真）
- ・売上は増加したものの、今春賃上げによる人件費増や燃油賃高止まり等により、採算は悪化した（運輸・物品賃貸）
- ・団体の宿泊が減っており、また、宴会1件あたりの人数も減っている（旅館・ホテル・洗濯・理・美容）
- ・コロナ禍が終了し、好転すると考えていたのだが、今期少し苦戦をしている。ニーズの変化に今後対応していきたいと考える（情報サービス）
- ・金利上昇、最賃のUP、作業用品等仕入単価の値上がりのため、利益が十分に確保できていない（広告・専門サービス・写真）
- ・秋田市内のマンション等の工事がほぼ竣工し、客室稼働率は減少傾向にある（旅館・ホテル・洗濯・理・美容）
- ・経営を縮小していっているため全てにおいて落ちている（旅館・ホテル・洗濯・理・美容）
- ・売上は微増であり、利益率は上昇した（旅館・ホテル・洗濯・理・美容）
- ・少子化と物価高の影響を受けている（広告・専門サービス・写真）
- ・売上は値上げにより増加したものの、賞与の増加や突発的な機械の修繕により経常利益は悪化した（運輸・物品賃貸）

## Ⅱ 来期の見通し（2025年1-3月）

### 1 建設業

- ・大型工事の遅延により減収減益の見込み（総合工事）
- ・工事価格の高騰により、設備投資を控える心配がある（設備工事）
- ・会社決算期につき、会計上の完成工事額は昨年同期と比べて増加する見込み（総合工事）
- ・受注残の減少により、採算、資金繰り、業況ともに悪化（総合工事）
- ・12月末現在、受注残はあるが、これから先は未定でありはっきりせず（設備工事）
- ・行程通り稼働できれば、完成工事高・利益ともに増加が見込まれる（設備工事）
- ・今期同様であると見込まれる（職別工事）

- ・一部の工事で労働力の確保が難しい（設備工事）
- ・業績回復の見込みなし（総合工事）
- ・今期より工期延長となった大型物件の竣工もあり、前年同期より若干の増加となった（設備工事）
- ・リニューアル推進が中心になると思う（職別工事）
- ・災害等の土木工事が増えているため、建物の改修等は少なくなると見ている（職別工事）
- ・官公発注の工事が見込めないため、苦しい状況になる予想（総合工事）
- ・工事が予想以上に遅れ、それに伴って経費がかかり赤字が予想される（職別工事）

## 2 製造業

- ・経常利益はやや好転する見込みだが、亜鉛価格と生産量により変化すると思われる（鉄鋼・非鉄金属・金属製品・一般機械器具・電気機械器具）
- ・生産量は、若干減少の見通し（鉄鋼・非鉄金属・金属製品・一般機械器具・電気機械器具）
- ・売上は昨年並みが予想されるが、原料米価格高騰に加え、資材価格の再度の値上げにより採算のさらなる悪化が懸念される（食品・飲料品）
- ・今後は受注も横ばいから微増の予定（鉄鋼・非鉄金属・金属製品・一般機械器具・電気機械器具）
- ・詳細はまだわからないが、大凡1～3月並みと見ている（鉄鋼・非鉄金属・金属製品・一般機械器具・電気機械器具）
- ・新事業がスタートするので好転する見込み（出版・印刷・同関連産業）
- ・原料等の値上げが続いているが、価格転嫁は進まず、収支は相当に厳しいことが予想される。人員削減を含め経費削減により収支改善を図っていく（食品・飲料品）

## 3 卸売業

- ・来期も今期の状況が続く（食料・水産物飲料品等）
- ・単価低下、取扱減少により売上が減少する見込み（その他）
- ・農家の減少に伴う数量減、また天候による高単価を見込む（食料・水産物飲料品等）
- ・積雪量が売上増減に影響してくると思う（食料・水産物飲料品等）

## 4 小売業

- ・今後店舗統合によりマンパワーが集約され、採算を好転する見込み（その他）
- ・雪が降るとプラスに働くため、暖冬の昨年と比べ、多少プラスになると思われる（織物・衣服・身の回り品・文具等）
- ・物価上昇が賃金アップに追い付いていないため、売上増は見込めない（織物・衣服・身の回り品・文具等）
- ・燃料油が単価上昇見込みではあるが、買い控えにより前年並みを見込む（自動車・自転車・燃料）
- ・商品改良の遅れの影響から、新規受注可能数が限定的になっており受注数が減少。前年同期間の販売台数を下回ることが予想されるため、減収・減益を見込む（自動車・自転車・燃料）
- ・例年、1～3月期は業績が良くない。耐え忍ぶしかないと思われる（食料・飲食料品等）

## 5 サービス業

- ・新年度は当社の関係がある土木工事をどの程度発注させるか不明なところがあり、少々不安要素である（運輸・物品賃貸）
- ・売上は同水準見込みである。採算は人件費向上により悪化（広告・専門サービス・写真）
- ・物価上昇が進行する中、見通しが立たない（広告・専門サービス・写真）
- ・今期の状況が継続する見込み（運輸・物品賃貸）
- ・人件費の増加で利益確保が難しい（旅館・ホテル・洗濯・理・美容）
- ・昨年以上の落ち込みが予想される（今期事由により）（旅館・ホテル・洗濯・理・美容）

- ・ 人員不足のため、従業員の体調不良で仕事が停滞することもあり、売上の減少が見込まれている（旅館・ホテル・洗濯・理・美容）
- ・ 固定人件費を出向させ、変動人件費で対処し、利益を増やす（旅館・ホテル・洗濯・理・美容）
- ・ 少子化の影響が続くと思われる（広告・専門サービス・写真）
- ・ 来年度の予算設備計画中により、詳細は不明である（運輸・物品賃貸）